



宮司プレス 第百六十六号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和三年二月二十七日

◇宮司の柴田です。 ようやく春の陽気が漂

(ただよ) いはじめた折節(おりふし) となりました。 「宮司プレスは、週刊だったのですか。」と、尋(たず)ねられそうな、宮司

プレス第百六十六号の発行です。 先月号に通算二百号までに、遅れの累積を限りなくゼロに近づけたいという大目標を表明させて頂きました。 早速、幸先(さいさき)のよいスタートとなりました。

◇さて、今年は、旧暦の元日、旧正月よりも先に立春を迎えるという、「年内立春」でした。 ちなみに、旧正月以降に立春が訪れる場合を「新年立春」と呼びます。 明治五年十二月三日に、現在のグレゴリオ暦、太陽暦に改暦されたのですが、それ以前の旧暦でも、元日と立春の日付が、最大で、半月ほどずれていました。従って、旧暦でも「年内立春」がありました。古今和歌集の冒頭を飾る和歌で、「年内立春」と言えば必ず引用されるという有名な和歌があります。ご存知ですか。平安時代の歌人で、在原業平(ありはらのなりひら)のお孫さんで、在原元方(ありはらのもとかた)が詠んだのが、

「年の内に 春は来にけり ひととせを

こぞやと言はむ 今年とや言はむ」というものです。 現代文に直しますと、「年が変わらないうちに立春がきてしまったこの年を、去年というべきか、今年と言うべきか」となり、「年内立春」にとまどっている印象を受ける和歌です。 悠久(ゆうきゆう)の長い時間を越えて、古今(ここん)、相(あい)も変わらず、珍しく、とまどいがちな暦(こよみ)というわけでありませう。

◇珍しい暦といえは、今年の節分は、百二十四年ぶりに、例年より一日早い、二月二日でした。 ちなみに、三十七年前の昭和五十九年は、逆に一日遅い二月四日でした。 太陽暦(たいようれき)では、地球が太陽を一周するのは、三百六十五日五時間四十八分四十六秒なので、その端数(はすう)を積んで、四年に一回、二月が二十九日となる閏年(うるうどし)としました。その閏年と同じ感覚です。 一年間を二十四の節気(せつき、立春や立夏など)に当てはめ定期的な運用をしようとすると、一年に少しづつ誤差(ごさ)が出てきて、ズレが生じます。 その調整というか、ズレた結果が、今回の二月二日節分ということになったそうです。 来年以降は、閏年の翌年の節分の日が、二月二日になるそうであります。

◇二十八日しかない二月には、重儀(じゅうぎ)というべき祭典が、四つもありました。 裏面に写真を掲載しました。 前述(ぜんじゆつ)の節分祭、建国祭(けんこくさい)、前号に詳述(しょうじゆつ)した祈年祭(きねんさい)、さらに、天長祭(てんちょうさい)です。 高千穂(たかちほ)の地から遠い東の国を平定された神武天皇(じんむてんのう)さまの偉業(いぎよう)である建国、国の生い立ちに思いを馳(は)せ、国家の繁栄を祈りましたのが、建国祭です。 さらに、天長祭にて、今上(きんじよう)陛下のお誕生日をお祝いし、陛下の御長寿、国家の隆昌、皇室の安寧を祈りました。 吉田松陰(よしだ しょういん)先生は、「身皇国(みこうこく)に生まれ

て皇国の皇国たるを知らずんば、何を以(もつ)て天地に立たん」と書いておられます。 この二月の四つの祭典は、日本が日本たる由縁(ゆえん)、日本人としての自我覚醒(じがかくせい)、アイデンティティーの確立(かくりつ)ともいえるべき重儀(じゅうぎ)といっても過言(かごん)ではありません。 吉田松陰先生の仰(おっしや)った「天地に立

た

た

た

た

たん」ということではないでしょうか。
 世界は、八つの文明に分けられるそうですが、
 一つの国で一つの文明を有（ゆう）するのは、
 わが国だけではありません。日本人として、こ
 なにも誇りに思えることがあるでしょうか。

◇明治天皇様は、御製（ぎよせい）に、
 「敷島の 大和心の 雄々しさは

ことあるときぞ あらわれにける」と
 詠まれておられます。敷島（しきしま）とは、
 日本の国のことで、大和心（やまとごころ）と
 は、協力協調の思いやりのある優しい気持ちで
 す。雄々（おお）しさは、強さ逞（たくま
 しさ）であります。まさに、「ことあるとき」の
 コロナ禍であればこそ、日本人の勇気を奮い立
 たせる時なのです。一日も早い終息、さらに、
 皆様の御自愛をお祈り申し上げます。

◇二月の祭典行事報告

▼月次祭 *二月一日、二月十五日

▼節分祭 *二月二日

*節分祭追儺式

*終日「福豆」を無料で、おわちしました

*花手水をしました



*節分祭限定御朱印頒布中（二月末日まで）

▼建国祭 *二月十一日



▼山本権禰宜神職身分二級昇進奉告祭

*二月十四日

▼祈年祭 *二月十七日



▼朝粥会 *二月二十一日

▼天長祭



▼六連島八幡宮祈年祭*二月二十五日

▼田の首八幡宮祈年祭 *二月二十七日

▼第十九代宮司柴田八十二宮司三十二年祭、
 柴田家祖霊祭 *二月二十七日

◇二月の宮司動静

▼山口県神社庁、同下関支部関係
 □下関市建国奉祝会役員会

*二月五日

□下関市建国祭 *二月十一日

□役員会、支部長事務局長会議

*二月十二日

□神社庁例祭 *二月十三日

□部落解放西日本講座（オンラインリモ
 ト研修） *二月二十五日～二十六日

▼その他

□下関木鶏クラブ（月刊「致知」読後感話
 会） *二月一日

□当宮神道会世話人会*二月二十一日

□下関人権擁護協議会自主研修

*二月二十二日